

特集 450年の奇習

# 沢田ろうそくまつり

2月14日、沢田地区で沢田ろうそくまつりが開催されました。好天に恵まれた当日はおよそ二千人の観光客が沢田神明宮を訪れ、火を灯したろうそくに祈りを捧げました。



## ろうそくまつりの起源

近年注目を浴びている沢田ろうそくまつり。その起源は、約450年前までさかのぼります。

— 壇ノ浦で滅んだ平家の落人の子孫が、沢田の地で先祖の霊を供養した。これが沢田ろうそくまつりの起源であるとされています。ろうそくまつりは毎年旧



岩木山をイメージした「雪ほたる」

暦の小正月（1月15日）に行われています。好天に恵まれ満月が顔を出した夜に、参拝者は岩屋堂のほこらの中にろうそくを立て、その炎に祈りを捧げます。

近年では豊凶占いの他にも、合格祈願や会社の繁栄など、照らされる明かりに縁起を担ぐことも多くなっています。



## 訪れた人、二千人

昨年の暴風雪とは一転して、好天に恵まれた今年の小正月。道路は駐車車両で埋まり、沢田地区入口には複数台のツアーバスが停車。オーブンングセレモニーが終わり、近くにあった雪山の上から見下ろすと、眼下にあるかがり火の

周りにはあふれんばかりの人の群れ。ろうそくを持って参道を登るも、そこにも順番待ちの長い列。

やっとの思いで参拝を済ませて一息ついたころ、実行委員会から「来場者数、2千人」の発表。今や相馬地区で最も集客力のあるイベントではないでしょうか。

眼下にはかがり火を囲む人々



## 豊凶占いの行方

2月15日早朝に行われた、ロウの流れ具合による豊凶の占い。

まだ昨晩のろうそくが灯っている岩屋堂のほころの中、大沢勝雄総代は「りんご・米ともに平年作となるだろう。昨年のような風水害の相は見えない。ただ今年のようにロウが大きく取れた年は、特にりんごでは遅霜に注意が必要だ」と語ります。



豊凶を占う

## 民芸品に触れる

ろうそくを灯すだけがあるうそくまつりではありません。岩屋堂が参拝者であふれかえる同時刻、炭俵工房

ではミニ炭俵製作の実演が行われており、興味を持った観光客が炭俵工房の外から炭俵づくりの様子を眺めていました。



ミニ炭俵作りに興味津々





笑顔でのぼり旗の準備をする種沢 満さん

### 準備は地域総出

ろうそくまつりの準備は地域住民が総出で行っていただきます。「焚き木を切る」となれば誰ということなくチェーンソーを、「除雪をしなくては」となれば誰かが自宅の除雪機を持ってくる。そして近年はボランティアアスタツフが数多く訪れ、住民たちと交流を深めながらろうそくまつりの準備を手際よく行っています。準備の最中、ろうそくまつり会場から笑い声の途切れる瞬間はたったひと時もありませんでした。

特に印象に残ったのが、準備初日にある人が話した「今年も来てくれてありがとう」という言葉。こういった空気の中に、地域住民と毎年やってくるボランティアアスタツフたちの絆の強さを感じます。

### 語り尽くせない魅力

幻想的な雰囲気や人々の触れ合いなど、沢田ろうそくまつりには魅力がまだまだたくさんあります。来年の小正月、沢田地区を訪れてみてはいかがでしょう。

(写真左) ろうそくまつりスタッフ、全員集合

(写真右下) 好天に恵まれた沢田神明宮

